

DUALISとは？

2013年に設立された、図書館司書を志すための勉強会を中心として活動している団体です。現在20名程度で週2回活動しています。

活動例

- ・週2回の勉強会
- ・図書館見学会
- ・他大学の図書館研究会との交流

勉強会

週2回の勉強会では、カレントアウェアネスポータルを使った情報共有や話し合い、図書館紹介、司書試験の過去問、ブックトークなどを行っています。

カレントアウェアネスでは興味のある話題を選び、それについて話し合うことで、カレントな図書館・情報界を知り、問題に着眼する力が付きました。また、司書の専門試験に向けて過去問にも取り組んでいます。最近では、先輩方が受けた試験内容を参考にし、ミニ作文を作る時間も設けています。ランダムで3つの単語を並べ、文章を作るといったものです。ブックトークやピリオパトルでは、「あ行から始まる本」などのテーマを決めて紹介します。本の魅力が伝わるように紹介する力や、自分では選ばないような本の知識が身に付きました。

勉強会では、紅茶を飲みながら和気あいあいと図書館について学んでいます。勉強会で身に付けたことを、採用試験や実際に司書として働く際に役立てていきたいです。

《番外編》とある日の勉強会でメンバーが作ったミニ作文をご紹介します！

単語 「雨」「夕焼け」「カレー」

「夕焼け色に染まった帰り道を歩いていると、カレーのにおいがしてきました。でもそれは私の家からではありません。なぜなら我が家は今夜、カエルの唐揚げだからです。昨日の雨で元気になったカエルを、父がたくさん捕まえてきたんです。たっぷりの油でからりと揚げます。」

「朝から降り続いていた雨がようやくやんだ。」

部活からの帰り道、僕は自然と足早になって家へ帰っている。

今日の夕食は、カレーなんだ。

久しぶりだから楽しみだな。

頭上には明日の天気を物語る、夕焼けの茜色の空が広がっている。」

「なんて素敵な氷室冴子～京都でよむ、平安京の物語」

企画 同志社大学院生 櫻田実季

同志社大学院生の櫻田実季が企画立案し開催した企画、『なんて素敵にジャパネスク』シリーズなどの小説やエッセイを著し、2008年に亡くなった氷室冴子さんの作品の魅力を伝えたいという思いの元、故郷とのコラボや関係者の講演イベントを行いました。企画展実施のきっかけは、櫻田がもともとファンであり、大学院のある課題にて「氷室冴子の全集」を出すことを構想したことからです。それは難しいことでした。そこで氷室全集がでるような機運を盛り上げるために、図書館情報学を研究する大学院生にできることを思索したとき、図書館の資料を使っただけの展示はならば、という結論に至ったことによります。開催は京都市中央図書館でのパネル展示をメインに、京都アスニーや同志社大学で講演会も行いました。パネル展示では、京都市図書館20館から氷室さんの著作を一堂に集め展示しました。そのうえで、インタビューした方からおすすめの氷室作品について述べていただいたものを編集したポップも作成し、本と共に並べました。

《実行スケジュール》

2018年	7月25日	京都市中央図書館訪問。企画の趣旨のプレゼン。
	8月～9月	氷室さんの著作権継承者の方へ承諾をいただくため趣旨の説明。承諾を得る。
2019年	9月～	集英社コバルト編集部（氷室さんの最後の編集者）へインタビュー 『文藝別冊 氷室冴子』の出版元河出書房新社へ協力要請。
	11月～	インタビュー本格化。
	2月14日	パネル展示
	3月14日	夢枕獏with小峯隆生トークショー
	2月17日	「氷室冴子と平安物語を語る」（後日京都新聞に掲載）
2019年	2月21日	藤田和子氏、増淵敏之氏、桂まに子氏講演会
	9月4日	朝日新聞から企画展についてのインタビューを受ける

